

ワクワクする自動車づくりを 京大発ベンチャー企業 GLM



EVとして復活したトミーカイラ ZZ(提供写真)

「公道を走るレーシングカー」をコンセプトに販売され、マニアの間で人気が高いスポーツカー「トミーカイラ ZZ」が電気自動車（EV）として復活を遂げた。同車を復活させ、開発・販売を行っているのは、京大発のベンチャー企業「GLM株式会社（以下、GLM）」だ。

GLMは当時京大大学院生で、現社長の小間裕康氏が2010年4月に立ち上げたEVメーカー。主な事業は「プラットフォーム事業」と「EV完成車の開発・販売」だ。「プラットフォーム事業」とは、車のボディと下の車台や駆動部分を分け、車台や駆動部分だけをモジュール化したプラットフォームとして販売する事業のこと。顧客は好きなボディを選び、世界に一つしかない自分だけの車を作ることができるようになる。

もう一つの事業「EV完成車の開発・販売」の第一歩として生み出したのがトミーカイラ ZZ。京都の自動車メーカー「トミタ夢工場」が製造・販売していた同名のガソリン車の名称・コンセプトを引き継ぎながら、まったく新しくEVとして設計しなおした車両だ。97年に製造を開始した同名車は、運輸省令による保安基準の改正によって約2年で製造を中止。03年にトミタ夢工場が事業を終了したこともあり「幻のスポーツカー」と呼ばれるようになった。同車の存在を知った小間氏は、トミタ夢工場創業者の富田義一氏と出会い、ブランド利用などの承諾を得る。加えて、富田氏がGLMに出資したことも、再開発への大きな足掛かりとなった。12年10月に国内初のEVスポーツカーとして認証を受け、14年8月には納車に至った。

GLMがトミーカイラ ZZの復活にあたってこだわった点は三つ。一つ目は「車とのダイレクト感」。ドライバーが運転していて、車と一体となるような感覚を目指した。二つ目は「加速感」。多くのスポーツカーの重量は1トンから1.2トン。850kgという車体の軽さにより、鋭い加速が可能となった。そして三つ目は「手の内感」。いわゆる「高級スポーツカー」では150キロから200キロまでの速度で楽しむ人が多いが、トミーカイラ ZZでは日常でもよく使う100キロ未満でも楽しく走ることができる車を目指した。

GLM広報担当者は「今後はトミーカイラ ZZの販売強化や機種の拡充を行い、プラットフォーム事業を軌道に乗せていけたら」と展望を語る。企業理念の「人々がワクワクする、自分たちもワクワクする自動車づくり」を目指し、GLMはさらにギアを上げ加速を続ける。（聞き手＝山崎祐貴）



UNN 関西学生報道連盟

vol.288

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式 HP) <http://www.unn-news.com/>
 ■共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-24 ダイニホンビル 4F
 (TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会
 同志社大学 PRESS 編集部
 NEWS 立命館通信社
 関学新月通信社
 阪大 POST 通信社

関西大学タイムス編集部
 神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
 京都女子大学藤花通信編集部
 京都大学 CLOCK 編集部
 の共同編集による週刊フリーペーパーです